

1. 科目名 (単位数)	衛生学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2311
2. 授業担当教員	鈴木 路子・山本 静雄・神宮 直人		
4. 授業形態	講義を中心に、演習、実習等を導入する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	生理学・解剖学を既習していること。免疫学概論・薬理学・病原微生物学等、関連分野を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について理解するとともに、それらが健康に如何なる影響を及ぼすかを考え、併せて、子供のときからよい環境衛生条件を維持することが重要であることを認識することを主なねらいとして、人間生活における身近な問題としての環境衛生を理解する。よりよく「生きること」を「衛(護衛する)学問」衛生学は、①生きるための資源、②生きる場(生活の場)、③生きる様式(生活習慣)が、人間の存続、生活生存に影響することに視点を当てている。空気・水・光・土壌・植生・食品、住居・被服・学校・職場等の環境衛生学を核にして、人間生態系にまで視点を広げ、学校教育や就学前教育を支える保育士・養護教諭・保健科教師の専門性の基礎基盤を修得することを目的とする。		
8. 学習目標	1 人間の生きる力は、環境との相互作用の中で培われていくことを、環境適応能力の発達の視点から理解し、応用することが出来る。 2 環境の捉え方を包括することが出来る。 3 衛生学の目的とその意義、歴史的変遷と現代的課題について理解する。 4 空気、水、光、温熱・気象、食品、土壌、衛生害虫等、人の生活生存に関わる環境の要因を理解し、各種環境基準について実測する。 5 学校衛生、産業衛生、住居衛生等、生存の場の各種衛生学の具体的内容・基準・法律等の理解とその体系を構築する。 6 人間一環境系(主体環境系)について理解し、日常生活に活かすことが出来る。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	【アサイメント(宿題)】: 原稿用紙5枚以内。提出日は、授業時に指定する。 1. 学校環境衛生の基準について説明できると共に測定技術を習得する。 2. 気象因子と人間の心身状態との関連を説明せよ。 3. 建築基準法と建築物衛生管理基準について検討せよ。 4. 各種職場環境の環境衛生の実態と労働者への健康影響について課題を発見し、解決の方法を模索せよ。 5. (1)感染症の予防法、(2)乳児の感染防御の仕組みについて簡潔にまとめなさい。 【レポート課題】: 最終授業時に提出する。 1. 人間一環境系について、環境衛生学の立場から論述せよ。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 鈴木路子著『人間環境教育学』建帛社、2017年。 配布または添付する資料を用いる。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1 人間の生きる力は環境との相互作用の中で培われていくことを、環境適応能力の発達の視点から理解できるか。 2 環境の捉え方を理解できるか。 3 衛生学の目的とその意義、歴史的変遷と現代的課題について理解できるか。 4 空気、水、光、温熱・気象、食品、土壌、衛生害虫等、人の生活生存に関わる環境の要因を理解し、各種環境基準について実測できるか。 5 学校衛生、産業衛生、住居衛生等、生存の場の各種衛生学の具体的内容・基準・法律等を理解できるか。 6 人間一環境系(主体環境系)について理解し、日常生活に活かすことができるか。 ○評定の方法 ・アサインメント 30%、 ・レポート 30%、 ・授業態度(質疑応答、授業後の学習達成振り返り調査) 40%		
12. 受講生へのメッセージ	人間の健康、心身状態・生命現象は、環境との相互作用の中で営まれること、多くのストレスへの身体内部の諸反応を含めた内部環境は、身近な生活環境から、地球環境レベルでの外部環境との相互作用の中で存続していることを実感するため、各種測定を行って共に考えてゆくひと時に使いたいと思います。人間(内部環境)は長い人類の歴史の中で外的環境への適応という形で存続していることを衛生学の理念として理解して下さい。 (成績評価についてのお願ひ) 以下の方法で成績評価を行いたいのをご了承くださるようお願いいたします。 A) 対面授業を実施した場合の成績評価は、上記11.によって行う。 B) オンライン授業を実施した場合の成績評価は、出席を40%、課題レポートを60%で判定する。 C) 上記A)とB)の両方で授業を実施した場合には、実施した割合に基づいて両方の評価基準を採用する。		
13. オフィスアワー	授業中に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	衛生学とは? 健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について理解を深める(鈴木担当)	事前学習	教科書全体の内容構造を把握しておく
		事後学習	自らの健康問題を解決のための基盤としての「衛生学」の理解を深める(判別討論)
第2回	人間生態系のとらえ方を基盤にした人間の生活生存のあり方を考える(鈴木担当)	事前学習	新聞記事等の情報を収集し、人間生態系の考え方を導入し、人類の生活生存の在り方を考える
		事後学習	教科書2部第2章 pp.191~195、配布資料の復習

第3回	自然環境と人の健康、生命、発育、人工環境化によって生じる健康上のゆがみに関する具体的健康現象 ー生物学的適応、生理学的適応、行動的適応、文化的適応に視点をおいてー（鈴木担当）	事前学習	教科書 pp. 24～29 を読み、人間の発育現象を知る
		事後学習	授業時のプリント併用、人間の健康現象を適応の概念で理解する。プリント・グループ討論・教科書をまとめ、自らの健康観を確立する。
第4回	生体リズムの同調（獲得過程）と脱同調による健康障害（自律神経不安定症）、気象因子の心身状態への影響（季節病・気象病）（鈴木担当）	事前学習	配布資料・文献等から、生体リズムについて理解
		事後学習	生体リズム・けんこう・気象因子の相互関連性の理解
第5回	環境保健：人間の環境とその評価、(1) 化学的環境要因（環境中の化学物質とそれらの健康への影響、空気環境測定）（神宮担当）	事前学習	教科書 pp. 191～228 の該当箇所を読んでおく
		事後学習	実測レポートの作成、提出
第6回	環境保健 (2) 物理的環境要因（音・光の健康への影響とそれらの測定）（神宮担当）	事前学習	教科書 pp. 191～228 の該当箇所を読んでおく
		事後学習	実測レポートの作成、提出
第7回	環境保健 (3) 物理的環境要因（温熱環境測定）（神宮担当）	事前学習	教科書 pp. 191～228 の該当箇所を読んでおく
		事後学習	実測レポートの作成、提出
第8回	環境保健 (4) 生物的環境要因（主な病原体と感染経路）（山本担当）	事前学習	資料を読んでおく
		事後学習	授業内容をまとめて理解度を自己評価する。不明な点は授業で質問するなどして理解する
第9回	環境保健 (5) 生物的環境要因（主な感染症と予防法）（山本担当）	事前学習	資料を読んでおく
		事後学習	授業内容をまとめて理解度を自己評価する。不明な点は授業で質問するなどして理解する
第10回	環境保健 (6) 生物的環境要因（水系感染症、環境汚染病、大気汚染と呼吸器系疾患）（山本担当）	事前学習	資料を読んでおく
		事後学習	授業内容をまとめて理解度を自己評価する。不明な点は授業で質問するなどして理解する
第11回	母子保健 (1) 妊産婦・乳幼児の死亡とそれらの原因（山本担当）	事前学習	資料を読んでおく
		事後学習	授業内容をまとめて理解度を自己評価する。不明な点は授業で質問するなどして理解する
第12回	母子保健 (2) 胎児と乳児の感染防御の仕組み（山本担当）	事前学習	資料を読んでおく
		事後学習	授業内容をまとめて理解度を自己評価する。不明な点は授業で質問するなどして理解する
第13回	学校環境管理等 (1) 環境と学校環境衛生、労働安全衛生（神宮担当）	事前学習	学校環境衛生管理基準（配布）を読んでおく
		事後学習	教科書・配布プリント、授業での討論の結果のレポート作成・提出
第14回	学校環境管理等 (2) 学校環境衛生・建築物環境衛生基準（シックビル症候群等）及び・地域における環境課題（神宮担当）	事前学習	学校保健法第6条、労働安全衛生法等における環境基準を整理する、新聞記事のチェック
		事後学習	授業内容・教科書及び各種資料を総合して、人間の健康、疾病、発育を護るための環境基準を整理し、グループ討論結果をまとめる：
第15回	生活習慣と人の健康：生活習慣病 グループ研究発表と口頭試問（鈴木担当）	事前学習	教科書 pp. 21～23、pp. 102～103 を読んでおく 課題の整理をグループごとに話し合う、発表資料の作成
		事後学習	各班からの研究発表を総合した考察・学びをまとめ、口頭試問への資料提供とする